

令和 2 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070702677		
法人名	有限会社 福の里		
事業所名	福の里 グループホーム 結		
所在地	福岡県北九州市八幡西区楠橋上方2丁目18-37		
自己評価作成日	令和3年1月25日	評価結果確定日	令和3年3月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	令和3年2月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

楠橋の静かな住宅街の一角に平屋建てで屋根には、自然な太陽の日差しを感じられる窓があり、明るい雰囲気である。庭には、畑や花壇があり作業の様子や成長を見て喜びや季節を感じることができる。
職員は、20歳代から80歳代と年齢層も幅広く得意な所・苦手な所をカバーしながら適材適所で力を発揮している。若手で理念委員会を立ち上げ新しい理念を作りあげました。「職員も利用者様も自分らしく笑顔でいれる場所」を掲げ毎日認知症高齢者の笑顔が観れる様に支援しています。そして私たちも笑顔でお仕事しています。年間の行事も季節を感じられ、良い思い出ができる様企画し楽しんでもらっています。
又、毎月、近隣の幼稚園の園児さんが訪問して下さり、子供とふれ合い、成長も観られことを毎月楽しみにされています。ゆっくりとした時間が流れるこの福の里の空間で利用者様皆様が、穏やかに自由な時が過ごせるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

月間目標の「優しい気配り、笑顔の対応」の実践で、体動が激しくベッドの傍にマットレスを敷いていた入居者は体動が軽減したり、家に帰りたいと玄関から出て行かれる入居者も敷地内の散歩で落ち着かれています。入居者が穏やかに過ごせることを喜び、「介護が天職」と話す職員からも、実践の成果が伺える。職員間のサポート体制は良好で、昨今入職した外国籍の職員も笑顔で就労している。コロナ禍の中、個々の入居者の生活状況を毎月のホームだよりで家族に報告したり、内部での運営推進会議録はメンバーに郵送している。交流のある幼稚園児の遊戯や園庭で昼食風景はホームのベランダやガラス戸越しのお披露目となったが、入居者は大喜びであった。代表による近隣の高齢者の定期的な買い物の送迎も継続し、全職員で地域に密着したサービスの展開や、理念の「職員も利用者様も自分らしく笑顔でいれる場所」づくりに邁進している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット／事業所名 福の里 グループホーム 結1

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「職員も利用者様も自分らしく笑顔でいれる場所」 この理念と毎月の目標を、毎日朝礼時に唱和し、職員間で共有し質の良いサービス提供を実践していく。	理念委員会で作り上げた新しい理念を具現化するために、月間目標の「優しい気配り、笑顔の対応」に努めている。入居者が穏やかに過ごせることを喜び、「介護が天職」と話す職員もある。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の盆踊りや文化祭などの参加や自治区会に加入し会議にも参加している。 毎月近隣の幼稚園との交流を行っていたが、コロナ禍で制限があるが、工作のプレゼントや園庭に招いて距離を取り交流している。	地域行事は中止となっているが、回覧板のやり取りは継続している。幼稚園児の遊戯や園庭で昼食風景はホームのベランダやガラス戸越しのお披露目となったが、入居者は大喜びであった。代表による近隣の高齢者の定期的な買い物の送迎は継続している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年の夏祭りには、地域の方も参加してもらいオープンな施設の中で利用者様へのいつものアプローチを知っていただき、又祭りを共に楽しんでもらっている。 今年度はコロナ禍で中止している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員の方・包括支援センターの方・ご家族の参加があり、貴重な意見や質問・提案など頂き参考にし改善に繋げている。コロナ禍での開催では内部のみで会議し、会議録を郵送し報告している。	今年度は内部会議が多かったが、10月、12月は運営推進会議を開催している。入居者の状況や行事、ヒヤリハットなど報告し、議事録を整備している。	運営推進会議の目的に鑑み、議事録の公表をお願いします。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターの方や民生委員の方との情報交換はできている。 社会福祉協議会より毎月相談員が来所している。今年度はコロナ禍で来所されていない。	内部での運営推進会議録は郵送し、意見を伺っている。地域包括支援センターとはコロナ禍の面会について相談するなど、日頃から連携に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は、玄関は勿論門扉にも施錠せず解放している。身体拘束廃止委員を決め委員会を3ヶ月に1度行い身体拘束の現状や日頃のケアの中での身体拘束や虐待について学び職員が周知できる様伝えている。	家族の了解を得たセンサーの使用による居室での転倒予防について、身体拘束廃止委員会で報告している。帰宅しようと玄関から出て行かれる入居者の思いに寄り添い、敷地内の散歩に同行したり、急に立ち上がる入居者には「どうしましたか」と、まず話しかけている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常のケアの中での職員の言動が虐待に値することを日々伝える事等を研修の中に議題として挙げて虐待防止に努めている。 小さな傷や皮下出血も見逃さず記録に残している。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	説明できるようにパンフレットを準備している。 入居の際必要な方には、説明を行っている。	事務室前に成年後見制度や日常生活自立支援事業のパンフレットを整備しているが、現在制度の利用者はなく、新人職員の研修開催には至っていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の相談時は、病院の事や入居後の生活、入院した時の事等、心配事が多いが、不明な点はその都度説明している。、契約時に再度安心して頂ける様に丁寧に説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置・要望や苦情があった場合は、内容と改善方法を掲示し、家族会でも報告を行っている。 ご家族の面会の際は、必ず声掛けをし日常の報告や要望などをお聞きしている。	面会ができない昨今の状況から、毎月のホームだよりで個々の入居者の生活状況を報告している。家族からの問い合わせなどには管理者やユニットリーダーが説明や対応をしているため、家族からは新人職員との接点がないとの意見やのんびり楽しく過ごしてほしいなどの希望がある。	家族からの問い合わせなどに、職員の誰もが対応出来るように細やかな連絡、報告、相談を励行し、コロナ禍の中一層の信頼関係の構築を期待します。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や研修時には、全員が発言することや個々に面談などを行っている。 意見や決定事項は、職員全体が把握出来る様に貼り出し情報を共有している。	月1回ユニット合同の職員会議では、厨房や汚物室の仕切りがカーテンであることなど衛生面について話し合い、代表に検討してもらっている。職員間で話し合った浴室の洗身タオルについても管理者に相談するなど、日頃から意見を出しやすい環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	初任者研修の受講を勧め研修費の援助を行っている。 適材適所を考え効率よく働けるよう配慮している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	20代～80代の職員が働いており得意な所を発揮しフォローしながらチームワークを取っている。又、外国人3名が働いていて、言葉の壁を乗り越えてコミュニケーションを一層大事にしている。年齢・性別・経験・資格等関係なく優しく思いやりのある方「自分の両親だったらどうするか？」と自分に置き換えて考え支援する職員となること。	この1年で5名職員が離職し、3名の外国籍の方を含む6名が入職している。職員間のサポート体制は良好で、優しい声かけや感染予防に配慮し、最低限の買い物以外外出を控えるなど気遣いが実践されている。希望休を叶え、資格取得を奨励し働きやすい環境を整えている。資格手当もあり、今年も2名が介護福祉士国家試験を受験している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	日々のケアの中での声掛けや、体調変化、精神状態等お互いに気付いたことは伝えあっている。 研修や会議の際も共有できる様にしている。	理念や月間目標の唱和で、常に人権に配慮した対応を実践している。不適切な発言は職員間で注意し合う環境づくりをしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の際は、ロールプレイングを取り入れ楽しく分かりやすく研修している。現場の中でも不安な事等質問できる環境を整え個々に応じた指導を行っている。職員のキャリアに合った研修の参加やOJTにて日々学んでいる。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	協議会や研修に参加して同業者との交流を取っている。 又、同業者と常に連絡し、情報交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居後は、環境の変化で不安が強いので慣れるまでの間時間をかけ寄り添い信頼関係を築いている。 本人・家族の意向を常に鑑みながら安心に繋がる関係を作っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前は、ご家族の心配事や質問には、細かく答え安心して頂けるようにしている。 話しやすい雰囲気作りにも努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に事前訪問させていただくことや本人とご家族が何を求めているのか、今後どのような生活を送りたいのかをしっかりと細部にわたり情報収集し、その方に一番ふさわしいサービスを見極め、より良い暮らしになる様支援している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	身体的に困難な方には、知恵をかり、身体的にお元気な方には、日々の家事のお手伝いや、行事やレクリエーションに力を借りて共同生活を送っている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の時は、日常の様子を報告し変化のある時は、電話で報告させてもらっている。ご家族が会いに来られた時は、居室でゆっくりと過ごしてもらっている。毎月「福の里だより」にて日常の様子を報告している。コロナ禍にてリモート面会も案内している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前住んでいたご近所の方が、遊びに来られたり電話でお話しされたり友人と外出されたりと関係を継続されている。 お手紙等での交流も支援にしている。	家族や友人と食事に外出できなくなり、電話や手紙のやり取りを支援している。馴染みの理美容が利用できず、訪問理美容を利用されている。衣類の受け渡しは玄関先で職員が行っている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性を築いている方は、会話しやすいよう席を隣にするなどの配慮を行っている。 コミュニケーションが難しい方は、職員が間に入り対応している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されても面会に行くこともある。 又、ご家族様がホームに来られ入院時の様子を報告して下さることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向をお聴きし、又日々の中で話しやすいような環境を作り、どう過ごしたいのかを理解し、少しでも理想に近い生活が送れるよう支援している。	入居時、情報シートに本人の生活歴や希望、家族の思いなどを記入してもらっている。急に立ち上がる入居者の思いを傾聴し一緒に行動することで、日頃はない行動や思いの発見があり、職員間で情報を共有している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の協力を得ながら情報シートに生活歴など記入してもらっている。 馴染みのある家具や持ち物を持ってきてもらい以前の生活に近い環境を作っていく事や継続できる習慣は、共に行っている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人状態は異なるのでその方に合った一日を過ごして貰い又、その日の体調にもよるので状態を把握し臨機応変に対応している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	少しずつ変化していく利用者様の健康面や状況に合わせ、ケアの方法を変えていくため、日々の情報を共有しその方にとって最適なことを見つけ現状に適した介護計画を作成している。	入居時体動が激しくベッドからの転落を予防するためにベッドの傍にマットレスを敷いていた入居者は体動が軽減したり、家に帰りたいたと玄関から出て行かれる入居者も敷地内の散歩で落ち着かれるなど、優しい気配り、笑顔の対応で状況に応じたケアが展開している。	介護作成担当者を含めた全職員でモニタリング結果や担当者会議内容を共有し、より具体的で個別的な介護計画の作成や見直しを期待します。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子は、支援経過に記録し朝礼・終礼で一人一人の状態を報告し共有している。 連絡帳なども利用し情報を共有しケアの実践や介護計画の見直しに繋げている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族との関係や生活歴などそれぞれの状況を把握し柔軟に対応できる様に日頃の観察や情報を集めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の幼稚園のイベントに参加することや毎月の慰問で楽しい時間を過ごしている。 地域の文化祭などに参加している。 今年度は、コロナ禍で中止している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様によって内科・精神科・泌尿器科と必要な科の受診や訪問診療が受けれるよう支援している。 かかりつけ医の先生とは、状況の報告や相談を密に行っている。	協力医の月1回の訪問診療を利用している 入居者がほとんどで、家族と連絡を取り合いながら専門医受診支援したり、精神科医や歯科の訪問診療も行われている。週1回看護師による健康観察や法人デイサービス常勤の看護師への相談で、適切な医療を受けられるよう支援している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化を早期に把握するため一日3回のバイタル測定を行い必要事項を看護師に報告している。 受診や検査がスムーズにできる様相談や報告は、密に行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、必ずホームでの生活の情報を医療関係者に書面で渡し、入院生活で少しでもADLの低下が無い様情報交換している。 先生にも早期退院にて早く元の環境に戻るようお願いをしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの事や終末期の事は、説明し要望は聞いているが、その状況にならないと分からないことも多い為その時期が来た時に、その都度ご家族とかかりつけ医（地域医療）に相談し支援していく。	入居時に終末期における方針を説明し、状態の変化に応じてかかりつけ医や家族と話し合いながら支援している。昨年11月少しづつ食が細り、かかりつけ医や家族との話し合いで入院となり、1週間後逝去された方もある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急の研修(OffJT)に参加することとOJTでのロールプレイングを行っている。緊急時に慌てない様緊急連絡先や病院などの一覧表を作成している。予測できる急変に対しては、個々のマニュアルを作成し対応している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練を行っている。 水消火器を使用し初期消火の訓練も行っている。 緊急時慌てない様全員に館内放送が使用できる様毎日交替で使っている。	6月や12月に避難訓練を実施し、12月は寒い ため昼間を想定し非常口までの避難訓練をしている。全館放送の大きな声に驚いてパニックになられる入居者もあるため、日頃は換気の館内放送を職員の訓練も兼ねて行っている。	昨今の災害状況から備蓄品や持ち出し 書面の検討をされ、消費期限など 明記した備蓄台帳の整備をお願いします。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の心身の状況や気持ちを理解するように心掛け言葉を選び対応している。 職員間で気付いたことは、その場で伝えあっている。勉強会や朝礼・終礼で問題提起し言葉かけの重要性を常に職員に伝える。	数年前の調査時コーヒーを淹れてくださった入居者はできることが少なくなっているが、代表と一緒に草取りなど、できることを支援している。入居者は「〇〇さん」と、姓名で職員たちから優しく声をかけられている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様がどうしたいのか？何を求めているのか？何に困っているのか？に気付き可能なことは、実現している。 二者択一の質問で選びやすいよう心掛けている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースに合わせ本人からの要望があればしっかりと話を聞き希望に添えるよう対応している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人に選んでもらうようにしているが、困難な方は、選択しやすいように声掛けしたり、以前良く着ていた洋服やお気に入りの洋服を着ていただいている。訪問理美容を利用し、理美容師に好みの髪型を伝えカットされている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日食事の献立を伝える事や調理の香りを五感で感じてもらい食事が楽しみとなるようにしている。コップやお盆などを拭いて片づけることを共に行っている。行事食で季節の食材の変化を楽しんでいただく。	ユニットの間、中廊下の一角にある厨房で、入居者の好みや形態を把握している専属の職員が季節の食材を調理している。調理の音や香りが漂う廊下側の戸棚は、感染予防のナイロンカーテンで仕切られているが、テーブルを囲んで其々のペースで完食される入居者が多い。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下の状態や疾患などを把握し一人一人に食べやすい形態や量を考慮している。水分量の把握は、毎日行い食事やおやつの時間又ご希望時に水分の提供を行っている。嚥下が悪い方には、ゼリーなどで水分を補給してもらっている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っているが、拒否などがある方には、時間を置きタイミングをみて行っている。 義歯の洗浄も定期的に行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的にトイレ誘導を行い、トイレで排泄出来るように働きかけている。又パットや紙おむつの汚染を減らし感染防止に努めている。立位が困難な方でも二人で介助しトイレ誘導を行っている。	入居者の半数が車椅子で紙おむつの使用もあるが、日中は原則としてトイレ排泄を支援している。入居者毎に排泄をチェックし、急な立ち上がりなどには「どうされましたか」と声をかけ、近づいて「トイレですか」と話しかけるなど、優しい気配り、笑顔の対応でトイレに誘導している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分を促し便秘しないように働きかけている。 朝起きてからコップ一杯の常温水、腸の動きをよくする体操等取り入れている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	声掛けをして入浴したいときに入ってもらっている方もいる。一人一人ゆっくりと入浴できる様支援している。入浴を拒まれる方には、毎日の声掛けを行い入浴して頂けるよう努めている。	週3回を目途に入浴を支援しているが、毎日入浴できるように準備をしている。「今日はい」と入浴を億劫がられても翌日は何もなかったように入浴されたり、声掛けの職員が変わると入浴される方もある。先月のゆず湯は好評だった。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状態に合わせて午前・午後と横になる時間をもうけ休息してもらっている。 安心して眠れるよう個々に合わせ、テレビや電灯に配慮している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書きは、薬と共に見れるようにしており、薬の変更や臨時薬などあるときは、申し送り周知している。 些細な症状の変化を発見し報告を行うようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居の際に情報シートを記入してもらい生活歴を把握している。 日課で洗濯ものをたたんでもらったり、洗い物をしてもらったりしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候のいい日は、散歩に行き気分転換や四季を感じて頂けるよう努めている。ご家族との旅行なども楽しまれる方もいる。外食を計画し、海の幸等本人の希望でメニューを選びランチしたりしている。今年度はコロナ禍の為、外出等は制限させてもらっている。	買い物や外出が自粛中でもあり、落ち着かない様子などがあると、園庭の散歩に出かけている。高台の広い敷地内を1周するだけでも気分転換になり、もう1周と言われる入居者や車椅子で散歩される入居者もある。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことで安心される方は、ご家族に了解していただき所持されている。好きなジュースを購入したり外出時に買い物をしたりされている。コロナ禍の為、施設内の自販機を使用してもらっている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば連絡を取って会話のできる方は、話してもらい難聴の方は、代わりに要件を伝えている。近所の方や友達からの手紙や電話連絡もあり自由に取り次いでいる。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日午前午後の1時間おきに換気を行っている。居室は、毎日空気清浄機にて除菌をして感染症の予防も行っている。天気の良い日は、天井からの自然の光を浴びることもできる。調理中の香りや音を感じてもらっている。	玄関から中廊下を挟んで有料老人ホームの居室があり、中ほどの事務室、向かい側の厨房の両側にホームユニットの出入り口がある。それぞれのテレビ前のソファやテーブルの食卓椅子で寛ぐ入居者の姿がある。ベランダからの採光が明るく、玄関先で業者による空気清浄機の定期点検が行われていた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	9名の生活空間に調度良い広さで利用者様の距離感も良い。好きな所で好きな人と自然に会話している様子も見られる。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際は、ご本人の馴染みの家具や衣類、写真など利用者様が落ち着かれるものがあれば、持ってきてもらっている。以前の生活に近い環境作りに努めている。	居室の目視はできず写真で情報を得た。障子のはめ込まれた窓から柔らかな明かりが差し込み、ベッドや持ち込みの筆筒、衣装ケースなどが配置されている。ベッド下のマットレスが夜間の入居者の転落の衝撃を和らげている居室もある。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人のレベルに合わせ出来るところを職員が理解し、手を出さず見守り、前向きな明るい声掛けを行い、待つ介護を心掛けている。		